

令和8年度第1回 中間市総合教育会議会議録

- 1 日 時 令和8年5月19日（火）15時
- 2 場 所 市庁舎本館4階 第1委員会室
- 3 出席者 市長 福田 浩
教育長 蔵元洋一
教育委員 八木秀和、鶴田弥生、田中健一郎
- 4 参加者 副市長 田代謙介
総務部長 後藤謙治
未来創造部長 井上 篤
総務部参事 持田 将一
市長公室長 芳賀麻里子
- 5 事務局 教育部長 清水秀一
教育総務課長 山口研治
学校教育課長 船元幸徳
指導室長 田口一樹
生涯学習課長 大畑祐一郎
教育総務課課長補佐 近野久幸
学校教育課課長補佐 濱田大輔
学校教育課課長補佐 西本延代
生涯学習課課長補佐 吉田浩之
教育総務課計画係長 原田真央
教育総務課計画係 原 葵
教育総務課計画係 尾中 勇
教育総務課教育総務係長 小澤友美
- 6 傍聴人 7人
- 7 議事日程 別紙のとおり
- 8 議事次第 別紙のとおり

中間市総合教育会議議事日程

令和8年5月19日（火）15時00分

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 議事
 - (1) 中間市新中学校施設整備実施計画について
 - (2) 中間市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
- 4 閉会

[開会時刻：15時00分]

清水教育部長

皆様、お疲れ様です。本日の進行を務めます教育部長の清水でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

本日はお手元にこちらの資料をご準備しております。お手元でございますでしょうか。

それでは、はじめに、本日開催いたします総合教育会議について、ご説明いたします。

総合教育会議とは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づき、本市の教育を行うための諸条件の整備及びその他の地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図る重点的に講ずべき施策について、市長と教育委員会が意見交換を行う会議でございます。この会議は、議題について決定する場ではなく、市長と教育委員会がそれぞれの立場から意見交換を行い、協議及び調整等を行う場でありますことを、改めてご周知させていただきます。

それでは、只今より、令和8年度第一回中間市総合教育会議を開催いたします。

議事進行につきましては、会議次第に沿って進めさせていただきます。まず最初に、福田市長よりご挨拶をお願いいたします。

福田市長

皆様、こんにちは。

本日は、大変お忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。会議の開催に当たり、ご挨拶申し上げます。

社会情勢が急速に変化し、不安定化する昨今において、本市の宝である子供たちが、安全安心に学び、生活する環境を充実したものとしていくこと、そして、答えのない問題や多様な社会課題に向き合いながら、自分で問題を発見し、解決できる能力や他者と協働して新たな価値を創造する力を育成することができるよう教育内容をよりよいものとしていくこと、そして、施設や設備をよりよくしていくこと、この両面の課題を克服していくことは、喫緊の課題であります。

今回、約1年をかけて、新中学校の配置場所であります中間中学校と中間東中学校の敷地を最大限有効に活用できる方策を、専門的な視点から検討を行い、中間市新中学校施設整備実施計画が策定されております。

本日は、子供たちの一人一人の可能性を引き出し、個別最適な学びと協働の学びの実現に向け、最適な教育環境の整備・充実、そして、更なる教育の質の向上を図ることができる学校について、教育委員の皆様と意見交換

を行ってまいりたいと考えております。

教育委員の皆様には、時間の許す限り、忌憚のないご意見をいただき、有意義な意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

清水教育部長

ありがとうございました。

それでは、議事に入らせていただきます。

議事につきましては、中間市総合教育会議設置要綱第4条第1項の規定により、福田市長に進めていただくこととされております。

それでは、福田市長、よろしく願いいたします。

福田市長

それでは、ご指名により、進行を務めさせていただきます。

議事（1）中間市新中学校施設整備実施計画につきまして、事務局からご説明をお願いいたします。

山口教育総務
課長

教育総務課の山口です。

私から、議事（1）中間市新中学校施設整備実施計画につきまして、ご説明をいたします。

本日は、お手元の資料として、中間市新中学校施設整備実施計画の冊子と概要版をご準備しております。そして、本実施計画につきましては、令和8年5月1日付けで市長に提言を行いましたので、その提言の文書の写しをご準備しております。

それでは、本実施計画を策定に至るようになった経緯、そして、教育委員会として、新中学校の施設整備を検討した結果について、ご説明いたします。

資料としては、令和8年5月1日付けで提言を行いました「中間市新中学校施設整備実施計画の策定に伴う調査結果を踏まえた教育環境の充実について（提言）」をご覧ください。

本実施計画の策定に当たりましては、令和6年4月25日に「学校再編による充実した教育環境の構築について」の提言書の回答として、市長から教育委員会に学校再編に伴う新中学校の配置場所は、中間中学校及び中間東中学校の2校とすることが示されました。

その後、令和6年6月28日と12月19日の総合教育会議の中で、市長から敷地内段差の解消や法面の整備、アクセス道の整備等について、設計会社に業務を委託し、最適な整備手法を検討するとの回答をいただきましたことから、教育委員会として、学校再編に伴う中学校の場所として、中

間中学校及び中間東中学校の敷地とすることを令和7年1月10日の教育委員会会議において、受け入れることを決定したところでございます。

教育委員会事務局といたしましては、市長から示された中間中学校と中間東中学校の敷地を最大限有効活用できる整備手法を検討するため、学校関係に豊富な経験がある設計会社に業務を委託し、約1年かけて、学校施設の耐力度調査や現地調査を実施するとともに、中間市コミュニティ広場・学校再編検討委員会や通学区域審議会の審議、パブリックコメントを経て、このたび、お手元にあります本実施計画を取りまとめたところでございます。

その検討の結果として、教育委員会は、中間中学校及び中間東中学校敷地において、新校舎を整備するとともに、敷地内段差の解消、樹木が繁茂した法面の整備、狭あいなアクセス道の改修及び新設による登下校時の安全対策を図ることが、教育の質の向上、地域コミュニティの活性化・長期的な財政効率化・安全性の確保等の多面的な価値を生み出す、未来を見据えた戦略的投資であるという結論にいたり、令和8年4月28日の5月定例教育委員会会議において、中間市新中学校施設整備実施計画を決定したところでございます。

つきましては、社会情勢が急速に変化する中、未来を切り拓く力をもつ子供を育てる学校教育を実現するため、様々な時代のニーズに対応できる施設設備の充実、地域コミュニティの拠点となる施設の充実、そして、主体的・対話的な深い学びによる更なる教育の質の向上を図る取組が推進できるよう、本日の総合教育会議におきまして、市長から中間市新中学校施設整備実施計画についてのお考えや新中学校の施設整備に関する考え方を教育委員の皆様にお伝えいただき、意見交換を行っていただきたいと考えております。

福田市長

ありがとうございます。

それでは、私から、新中学校の施設整備に関する考えについて、皆様にご説明させていただきます。

まず、これまで進めてまいりました学校再編、これについて近年の社会経済情勢の変化を踏まえて、その方針を一部見直すことといたしました。皆様ご承知のとおり、昨今の物価高騰や建設・資材価格の上昇、更には中東情勢の影響によるエネルギー価格の変動など社会経済情勢の先行きが一層不透明となっております。

現に本市においても、1年前の時点において教育部において試算された学校新築に要する経費、これは概算ですけれども、1校当たり約25億円と

されていたものが、現時点では約100億円と、4倍にも及んでいる状況でございます。

このことを考慮せずに、これまでの計画どおりに学校再編を進めることは、却って子供たちや市民の皆様には大きな負担を与えることとなりかねません。このことから、本市では、まずは経済政策、これを最優先課題として取り組み、安定した経済基盤の上で、よりよい教育環境を持続的に提供してまいりたいと考えております。

それでは、見直しを行いました学校再編計画の概要についてご説明いたします。

中学校の再編については、まず、中間中学校と中間北中学校の再編を先行して実施いたします。具体的には、既存の中間中学校校舎を活用し、できる限り早期の開校を目指してまいります。

先行実施する理由といたしましては、両校がともに小規模校であり、現状では、多様な考え方に触れ、切磋琢磨する学習環境が十分に確保できていないことが挙げられます。再編することによって、適正規模を確保し、教職員体制の充実を図るとともに、多様な人間関係の中で、互いに学び合い、高め合う教育環境を整備するためです。一方で、老朽化している中間中学校校舎の整備についても、計画的に取り組む必要がありますことから、これからの本市の学校のあり方についての様々な検討を踏まえながら、

10年後の新築校舎の供用開始を目指してまいります。

次に、中間東中学校と中間南中学校についてでございます。

両校はいずれも現時点では適正規模校ではありますが、ともに13学級と、下限に近い状況にあり、近い将来の小規模校化が見込まれます。

将来にわたって安定的、かつ良好な教育環境を確保する観点から、両校の再編について、既存校舎の活用を含め、あらゆる選択肢から子供たちや市民の皆様にとって最適な学校再編となるよう、さらなる検討を進めてまいります。

小学校の再編につきましては、長期的な視点に立ちまして、20年後に新築校舎を供用開始し、再編を目指すことといたします。

以上の方針に基づき、本市では、子供たちにとってよりよい環境の整備に努めてまいります。

同時に、地域の皆様のご意見を丁寧にお聞きしながら、慎重かつ着実に計画を進めてまいり所存でございます。

それでは、これからは、教育委員の皆様との意見交換の時間とさせていただきます。教育委員の皆様、ご意見がある方は挙手をお願いいたします。

田中教育委員

田中と申します。私の方からは、今、市長のお話をお聞きして、まず、感想から申し上げます。

新築校舎による未来志向の学校再編については、これまでも、諮問答申、様々な会議や提案、パブリックコメントの実施などにより、着実に実現の道を進んでいると感じておりました。

教育の質の向上、地域コミュニティの活性化の両立に向け、大きな期待を抱いていただけないか、今日、市長の方から、新築は厳しいのではないかと、うお話を聞いて、非常に残念に思っているところです。

ここからは質問の方に入りますが、当初想定されていた新校舎の建設は、財政的な面を考慮し、難しいという市長の見解をいただきまして、言われていることは理解ができました。

市長の説明の中で中学校の名前が4校出ていましたが、もう一度確認の意味も含めて質問させていただきます。

4つの中学校から当初の中間中、東中の2中学校への配置転換について、新築がなくなるということですが、この先、4校から2校になるということは、継続ととらえていいのでしょうか。

または、現在と同様の4つの既存の中学校の校舎を残してからの再編という考えでよいのか、もう一度、市長の意向をお伺いいたします。

よろしくお願ひいたします。

福田市長

ありがとうございます。

まず、ご理解いただきたいのは、新築をやらないとは一言も言ってないのですね。新築はやらざるを得ないですよ。新築はやりますが、今じゃないということだけなのです。

これを本当にご理解いただけないと、全く違う方向に行きます。

教育委員の皆様のご意見、そして市民の皆様のご意見も含めまして、学校の老朽化も含めまして、非常に僕は理解しているつもりです。

なので、新しい校舎を建てること、これは僕はとてもいいことだと思っておりますし、それを進めさせております。

ただども、冒頭に僕が申し上げましたように、この昨今のこの世界的な経済状況、ましてや、先が見えない状況において、今、新築建てるということは言えないということをご理解していただきたいのです。

まずは、最初はしっかりとした経済基盤を作ってから、新しいものを建てましょう。とはいえ、今までやってきたような、先送り先送りのことはやりません。

先ほど言ったように、10年以内には、中学校に対しては新しい校舎を建

てましよう。それに向けて、経済基盤をしっかりしましようと申し上げております。

新築がないのがっかりしましたということを言われていましたが、おっしゃるとおりだとは思いますが、新しいものを建てるから教育が充実するとは僕は思っていません。あくまでも、まず教育の中のソフト事業をしっかりと、教育の質の向上をやってください。

新築を建てることはお金の要ることじゃないですか。

このことに関しては、これから、子供たち、それから市民の皆様に、将来禍根を残さないように、経済基盤をしっかりしてから建てましよう。

だけど、もう1回言いますね。先送りしないんです。もうやらなきゃいけないんです。聞いてます。もう相当聞いてます。ぼろぼろだそうです。聞いてます。

だけど、早く建ててあげたいのですが、今やらなきゃいけないことはみんなと一緒に、経済基盤をしっかり頑張りましようということをお願いしているんです。ご理解いただけますか。

田中教育委員

ありがとうございます。

まだ、私たちは夢を持ち続けていいと、そういうふうに理解していいのですね。只今のお話ですと、今年は今令和8年ですので10年以内ということは、令和18年までに新しい校舎が建つようにみんなで進みましようということを確認していいですね。今の時点で。

福田市長

そうですね。おっしゃるとおりです。

田中教育委員

当初予定してた令和10年の開校、ここについては、少し今の経済状況では難しいですよということですよ。

ということは、8年ずれるということですから、少なくとも8年間の間は今と同じ4校で中学校はやっていくということになりそうですね。

福田市長

それに関してですが、新築による再編ではなくて、まず学校の再編をやりましようと冒頭に申し上げました。ですから、4校を2校に再編成しましようということなんです。

新築ができてから用意ドンでやるのではなくて、まずは再編から進めてまいりましようということで、場所が中間中学校と、そして中間南中学校に再編を持ってこようということになってます。

新築に関しては、当初言ったように、中間東中学校で予定をしているとい

うことです。

でも、今、再編をまず最初にやりましょうという時に、東中に再編はできないのです。場所的に小さいから。これはわかりますよね。

なので、今、できる場所で考えた場合、中間南中学校に中間東中学校の子を一緒にして、そして、中間中学校と中間北中学校を一つにするということから、再編を始めましょうと。

それから、できれば令和10年4月目標でやりましょうって、これは前々から言ってきました。けども、昨今いろいろな事情があります。

別に先延ばししたいわけではなくて、目標というものは決めるためにあるものですから、目標としては、令和10年4月に向けて、再編を進めてくださいってことをずっと言い続けております。

しかしながら、事情で延びることに関してこれは致し方ないと思っていますので、まずは再編から進めてください。これでよろしいですか。

田中教育委員

ありがとうございます。

私が少し勘違いしていたみたいで、4校でやるのではなくて、中間中と北中が一緒になる、東中が南中に移動するということで2校ですね。再編はわかりました。

東中の場合は、先ほど山口課長の方からも話がありましたけれど、法面の整備とか、道路の整備とかいろいろなことがあるので、お金がかかりそうだなと思っていましたが、南中になるとその辺りが少しお金がかからないような形に近づいていくのかなと思いました。

しかしながら、東中の子供たちが南中に行くとなると、当然今の校舎では足りないですね。これも改修や増築が必要になってくるのでお金が要ります。少しその辺りをお聞かせください。

福田市長

おっしゃるとおりで、既存の南中の施設の中で、当然今の生徒数だと、足りなくなるので、例えば、仮設の校舎を増設しなければいけないという結論に達した場合は、増設するという事は致し方ないことだと思っています。

田中教育委員

ありがとうございます。

鶴田教育委員

鶴田です。質問をさせていただきます。

まず、教育予算というものはコストではなく未来への投資、中間市の未来をどう作るかという議論であるとして、私たちは真剣に話し合いを進めて

まいりました。単なる学校の建替え云々ではなく、中間市の未来をどう作るかという話だと認識しております。

そのような中で、中学校供用開始は10年後を目指すということで、工事のスタートを考えてみますと、そんなに先のことではないとも感じます。

そして、これまでも経済基盤を作るということは、福田市長をはじめ皆様がかなり努力をしてこられたことだと信じております。

となりますと、未来不透明と言いますが、10年後の供用開始の前の段階までに解決されるのかということがすごく不安な点でもあります。

そして、再編はソフト面から進めるというお話もございましたけれど、先生方の働き方改革などが進められている中で、どのように進められるのかという点も疑問に思いましたので、ぜひお答えいただけるとありがたいです。

福田市長

まず、ご心配ありがとうございます。

教育というのは、確かに、そういった予算をかける意味合いが違ってくる。おっしゃるとおりで、教育は絶対にもう大切なことですし、基本中の基本だと思っております。

その中で、今言った10年後を逆算すると、確かにそのとおりで5年ぐらい前、つまりこれからもう5年以内ぐらいには、計画を立てないといけません。

それもわからないで、ただ僕は10年と言ってるのではなくて、今の既存校舎は10年後には、もう崩壊するぐらいボロボロなんです。だとしたら、まず10年後には、新しく学校を建てないといけないということが結果として出ますよね。そして、建てるということはその逆算からいうと、5年ぐらい前にはもう計画立てないといけない。

ということは、学校を新築するにしても、その予算は国から補助金が出るからとか、今財政調整基金が幾らかあるからとか、そういうもののために使うものではないです。

あくまでもこの借金は誰に来るかということを考えた場合、市民と子供たちの将来だと思います。それも含めて私たち大人は考えていってあげないと、新しいものを建てるから使おうじゃないかなんていうような考えは殊更思っておりません。

だとしたら、5年以内に計画を立てないといけないということは、経済の持続可能なお金も5年以内に作れってことですよね。

これ誰が作るんでしょうか。

これこそ、僕は教育だと思ってるんです。

これこそ、大人が、自分たちは何をしなきゃいけないかってことを考えるべきだし、考えて当たり前だと思っています。

私たち、行政の中の市長部局だけが、お金を稼ぐため、あるいはその予算を作るために、あくせく考えてやるべきものではないと思います。

市民の街ですから、市民、子供たちの学校ですから、市民全員がこのお金を作るためにどうしたらいいだろうかって考えていただくのが、今回の提案だと思っています。

私が5年以内に、よし、お金作るぞ、大丈夫だよって、言えますよ。でもそんなものを信用しますか。

信用してください。そのために頑張ります。だけど、私1人の力なんて非力です。わかりません。だとしたら、皆様が新築がいい、こういうふうにするべきだと思うのであれば、共にやりませんか。

この考えが教育だと思ってですね。

国語、算数、理科、社会だけが教育だと思っていません。なので僕は、3本柱とよく言いました。教育、経済、福祉のこの3本柱全て一体だと言ってます。

これを含めて、この街というものをやっていく、運営していくのが、市長である私の決断であり、やり方だと思っています。

今この話し合いは、何となく新築の校舎ありきのように聞こえてしょうがないのです。そうではないのです。そうするためにはどうしたらいいんだってことをみんなで考えていきましょうよ。

鶴田教育委員

市民がお金をつくるというのは、少し乱暴なふうにも聞こえてしまいますが、もう少しそのあたりを丁寧に説明していただけますか。一市民の皆様にも理解していただけるような言葉で説明すると、どういったことになるのでしょうか。

福田市長

ありがとうございます。

それこそが、今月、市民の皆様にお配りしております市政だよりの中にしっかりと書いております。今年度、予算をどのようなものに使い、そして、私が市長となってこの8年間、やりたいと思ってることがなかなかできなかったり、あるいはしなければいけなかったことができなかったり、いろいろなことがありました。

しかしながら、今年度、しっかりとやらないといけないことを含めて、やれるような体制になっております。

これを読んでいただければ、今言ったように、市民の皆様も一緒になって、

私たち行政がこの市のために必ずや未来志向の予算組みをしていることはわかっただけだと思っています。それを今ここで説明すると、1時間ぐらいかかってしまいますので、どうか、それをぜひ読んでいただければと思っています。

鶴田教育委員

もう校舎は限界を迎えているということは、子供たちも先生方も感じていらっしゃるって、そしてパブリックコメントでもいつになく市民の方たちの声が集まっています、それも期待を込めた声がたくさん集まったと伺っているのですが、そういった皆様にも納得していただければと思っています。ということによろしいでしょうか。

福田市長

そう思います。そうあって欲しいです。

ある中学校で、新築のことに対して聞いたときに、子供たちの方からお金はあるのですかみたいなことを言ってくれたらしくて、何かそれ聞いたときに、やっぱり子供たちもよく知ってるなというか、だとしたらこの不安を無くさないといけないと思いました。

新築は必要かもしれないけれど、やっぱり財布は一つだから、これをしっかり考えてくれてるんだったら、中間市として運営する基盤、やっぱり産業の創出ですよ。中間市といえどという産業がないですから、ご存知のように、収入の主なもの他へ、もうほとんどわかりますね。

それと私たちは3割自治なんですね。つまり3割しか、中間市ではお金がないんです。7割は国からの補助金なんですね。

この中で、新たな税金を僕たち使っているのかと思ってしまいますよね。

せめて私たちが自助努力して、3割自治を4割自治にするとか。

できるんですよ。してきたんですよ。

ここにいるみんなの涙ぐましい努力で、クリップ一つをごみ箱から探したりしたんですよ。使える鉛筆、もう1回使ったりしたんです。

そういう努力をして、中間市は一生懸命頑張ったんですね。

こういう姿はもう、これからさせたくないじゃないですか。

だとしたら、今までの市のあり方、行政としてのいわゆるハコモノ行政と言われたものは一切僕は許しません。教育の質というのは内容ですから、僕はそこにかかっているとと思っています。

なので、言いたいことの中の一つに、子供たちが財政のことを心配してくれたということ非常にうれしかったということがあります。

ごめんなさい。余談で、そういうふうな意見もあったということが入ります。

鶴田教育委員 産業を呼び込んだり、新しい産業を作り出す、そこでもまた心配がスタートすると思います。産業を呼んで終わりですとか、生まれて終わりではなくて、そこからまた不透明な未来が結局始まってしまうと思いますが、限界がきている校舎、そして供用開始までの10年間、その間の子供たちのことをどのように考えてらっしゃるのかということもお聞きしたいです。

福田市長 今、学び舎に対して、老朽化してるところはいろいろあると思います。でも、一番大事だと思って欲しいこと、それは、やっぱり学校で、友達と、先生と、楽しく学校生活を送ることじゃないかなと思っています。決して、例えば雨漏りがするからとか、壁がはがれているからとか、だから勉強できないっていう子供たちは多分1人もいないと思います。というのは、先日、中学校の運動会がありまして、4校に行かせていただきました。本当に子供たちの明るい掛け声や笑顔、それから汗をかいている姿を見たときに、だって、今の校舎でやってるわけじゃないですか。学校が老朽化してぼろぼろだからって、悲惨な顔はしてないですよ。運動会を一生懸命楽しむから楽しいのであって、運動会の内容がつまらないから、あるいは、僕らのクラスは、例えば、シューズが古いから走れないとか言ってる子はいないと思います。運動会が楽しいから、大会が楽しいから、自分たちで楽しもうっていう子供たちがいたから、楽しくなると思います。転じて、今、何年後かの新校舎じゃない今の子たちに、楽しんで欲しいというか、学んで欲しいのは、今ある環境で最大限の自分たちが与えられている教育に対して、どう思って、何をしなきゃいけないかってことを学んでいただきたいのです。僕はそう思います。これが本当の教育の形じゃないかな。だって、探究授業って今あるのですよね。与えられた問いに答えるのではなくて、自分から問いを探しに行くという教育が大事だそうです。だとしたら、今置かれてる環境こそが、今学んでいる子供たちにとって、すごくいい教材じゃないかと思っています。

鶴田教育委員 おっしゃるとおり、学校というものはただ勉強する場所ではなくて、子供時代にこの街で育ってよかったと、そういった記憶が生まれる場所であると思っています。ですが、子供たちが安全性について注意を払ったり気づくことはそうそう

ないと思います。ただ気づけていないだけではないかと思います。
大人がそこは気づいてあげるべきですし、前もって対策をしていくということが当たり前だと思っています。
学びたくなる学校であり、通わせたくなる学校、そして働きたくなる学校を目指すという方針をこれからも続けていただければと思っています。
一旦以上とさせていただきます。

八木教育委員

八木と申します。よろしくお願ひします。
これまでも再編の話について、私も一市民として、教育委員をさせていただき前年から携わっており、かれこれもう6年ぐらい関わってきております。その中でいろいろなことを勉強させていただきました。
少し私のことを言いますと、私自身も中間市で生まれ育って、中間市で教育を受けてきました。現在、私の息子も中間東中学校に通っています。校舎や体育館は、私が卒業してもう31年になりますけれど、全く同じです。その当時は、雨漏りとか、そういった不都合はあまり気づかなかったのですが、先日授業参観などで行くと、やっぱりそういったところが散見されます。危ないところで言いますと、外壁が剥がれているところなどもあります。
また、最近は災害級の豪雨がありますので、そういった予報があるときは、先生たちは事前に雨漏りする箇所がわかっていますので、校舎の中に水が流れる道を作って外に排出するように準備をするなど、本来やらなくてもいい仕事をやっているのが現状です。
もちろん、教育委員会の方もその都度、設備を修復してくれるような形をとってくれていますが、やっぱりそれでも追いつかない状況であります。今、市長が10年後を目指すということで、今までの教育委員会からの計画から大きく変わった内容を示していただきましたが、率直なところで言いますと、先ほど市長は新築をやらないということではないと、はっきりおっしゃっていただきましたので、その点としては安心しています。その先の10年間ということが、その計画を踏まえて言うと5年ぐらい、言葉が少しよくないかもしれないですが、先延ばしになったという形で解釈しました。
市長が先ほど言われた経済状況の中で、物価の高騰や資材の高騰が甚だしいということは、肌身をもって感じているところであります。
しかし、その10年後に供用を開始するとなったときの費用というものが、大体幾らぐらいなるのかということは、正直想像もつきません。
将来のさらなる物価上昇を埋めるほどの具体的な経済政策が、この5年間

というそんなに長くない期間で実現できるのかということが少し不安なところではあります。そこでもし財政が上向いていなければ、さらに先延ばしされてしまうのではないかとということが危惧される場所ではあります。

先ほど鶴田委員と福田市長の話の中で、保護者や市民が納得するのかという話になりましたけれど、「納得して欲しい」、「納得してくれると思う」という回答がありました。やっぱり納得するにはそれなりの説明なり、事情なりを語り、これまでよりももっとコミュニケーションをとり、対話することが必要になると思います。

今日ここで大きく舵取りが変わりましたので、まずは保護者であったり、PTAの方を中心として、今回の方針について不安を払拭するような説明をしていただきたいと思います。先ほど南中の仮校舎の話もありましたが、実際、いつ、どのような校舎になるのか、プレハブで過ごさないといけないことが出てくるとか、それが我が子だった場合、保護者はどう思うのか、また、南中が避難所となった際、スペースは問題ないのかまでが考えられているのかどうか。

先だって通学区域審議会でも、東中の敷地と中間中の敷地を使うという前提で校区の答申がありました。しかし、市長の方針だと答申自体が前提から崩れてしまうような形になります。

今回の先行した再編の場合の通学区域をどのようにするのかというところをまた一からやり直さなければいけない、そういったところも踏まえて、十分な説明は要るのかなど、先ほど市長の話を聞いて思いました。

市民に対して、もう少し我慢をしてくれという話になると思いますし、今の校舎を保護者として見ていて、一刻も早く新築というところは正直思っていたところではあります。そういったところも踏まえて、今まで以上に説明なり対話なりをしていただくことが必要だと、今までの2人の委員さんのお話を聞いて感じたところでもあります。

ここから質問に入らせていただきたいのですが、3月の議会において、私も再編に関わることについては、注意深く見させていただいておりました。その中で、ソフト面から進めますという話が出ましたが、ソフト面というものが具体的にどのようなことを指すのかが、正直私としては理解ができていません。今、通っている子供たちの授業などを見ると、ICTを活用した教育などはかなり進んできています。

それではなくて、市長の言うソフト面というものが、具体的に何を意図されているのかを教えてください。

福田市長

ありがとうございます。ソフト面のことについて質問させていただいている

と思います。

先ほどと少し同じような話になりますが、よろしいでしょうか。

まず、八木委員から先延ばしになって不安ですって言ってもらいました。

もう1回言います。新築はしなければならんのですよ。良いですか。

で、新築するということはローンを組むわけです。家庭で考えてください。

今の古い家を壊して、新しい家を建てるんですよ。

それが、お父さんが少し待ってくれって。どうしてって尋ねたら、「今、会社が少しわかんねえんだよ。」「でも僕、古い家はやだよ。」

「わかってるよ。でもな、お父さんの会社が倒産しちゃったら、25年間ローン組んでるお金は誰が払うのよ。」って言うてるんですね。

「じゃあ、父ちゃんどうしたらいいんだ。」「うん。だからな、父ちゃんの会社がつぶれないように社員一同頑張るよ。何年間かは。もし駄目だった場合、新しい仕事について、このローン払えるようにするよ。」って、今言ってるのです。お父さんは。

よろしいですか。

だから、今ローン組んじゃったら、逆に言うと僕すごく不安なのは、大丈夫ですか、今この状況で、先払えますか。

同じようなことを、中間市は何十年も前に言っていた気がするんですね。

令和元年度に破綻寸前になったんです。誰もがわかっていたはずですよ。

このままの中間市だったら経済破綻するって、誰も何で言わなかったんですか。なぜ1回止まって、今必要なのは、産業の創出であり、収入を増やすことなんだよと、誰も何で言わなかったんでしょう。

多分言ってたんでしょう。

でも、良識のある方々と、一生懸命頑張ってくれている職員とによって、令和元年破綻寸前の街が、今や、よくV字回復と言われてますけど、これも見かけ上です。よろしいですか。カラ雑巾をギュッと絞った状況だと思ってください。もうこれ以上絞れないですよ。

雑巾というのは1回作ったバケツに水を入れて、そこに1回浸さないと取れないんです。今やらないといけないことは、バケツともう一つはその中の水を作ることです。今バケツを作り上げてる時期に、また払わなきゃいけないものがあつた場合、どこから取りましょうか。というのが僕の考えなんです。

だから、新築は待てと、わかった、やってやるから。

でも、今足元を見たときに、何年か、1年なのか、ひょっとしたら3年なのか、でも10年後には新しくしなきゃいけないというものを、十字架を背負った中でやっていこうと言っているのです。

まずこれをご理解いただきたいのです。だから、悲観しないでください。新築がなくなるとか、子供たちが残念など、いえいえいえ、10年後には新しいものを作らないといけないのだから。その前に今何を考えなきゃいけないかっていう、これは僕がさっきから何度も言っていますが、教育の一環だと思っています。

例えば算数で言うと、算数の問題は答えがある中の問題が出てます。でも、今この社会的な問題って答えは出ますか。出ないですね。

これが探究学習だと思っています。

どうしたらいいのかっていうことを考えていただきたい。乱暴な言い方をしてるようですが、もうこれ決して乱暴な言い方ではないと思います。教育委員の皆様も、幼少の頃から中間市で学び、そして中間市で育て、そして中間市のこと思い、ここで言ってくれていることも、本当に痛いほどわかっています。

なので、今やらないといけないことは、教育のソフトだよってというのは、今置かれている現状を、いかに養った知識をどう生かしていくかっていう知識を見識にしていきたいのですね。

これをソフトだと思っています。ソフトの充実って、例えば機械を導入するから充実するとか、学校の先生がこうなるから充実するってものではないと思います。ソフトの充実というのは、与えられた道具をどう使うかということを考えさせることがソフトだと思っています。

ここ間違ってますかね。間違ってたなら、僕が、この今まで生きてきたことは全て無になってしまいます。

それと、いばってはいないのですが、やってきたことが正解だったから、みんなとともにやってきたことが正解だったから、この街は破産しなかったんじゃないですか。

だったら、少し僕を信用してくれませんか。今やろうとしてることは、やれることがやれるようになったんだから、やらなきゃいけないことをやろうって言うてんです。

それはハコモノ行政じゃないです。

今やらないといけないことは、本当に自分たちの力で、この市を何とかしなきゃいけないという、大きな問題なんです。さあどうするってやつです。でも僕は、市長として選ばれましたから、どのように中間市をやっぴいかなきゃいけないかっていうのは、もうやっています。

職員も知ってます。いろいろな考えがいっぱいあります。

今日ここに来るまでも、当然ですけども、中間市を何とかしようとして動いています。なのであとは、これを理解をしていただいて、一緒にやっぴい

くこと。それが今、問題となっている新築の学校についてのローンの支払いですよね。これが安定したものに、なった方が良くないですか。

先行き心配の中でローンを組むより、よし、払えるようになるぞっていうようなものをやりながらやった方が、いいんじゃないかな。だから、先ほどから大きく転換したって言われ、言われるたびにドキッとするんです。

でも、やめたとは言ってないですよ。

君子豹変すっていう言葉もあるじゃないですか。

今、このまま進めたらきっとこれは間違いだよっていうことを、僕は改めていいことをするために、本当にいいことをやるために、1回自分の言うことをゼロにただけです。本当にこの街のために豹変しますよ。

本当に良いものに生まれていくために、決断をさせていただいているんですね。皆様をがっかりさせたりしているかもしれませんが、決してがっかりしないでください。

絶対そんなことのためにね、やっていかないし、通っている子供たちの通学路に関しての法面のこととか、いろいろなことですよ。それも含めて、やらなきゃいけないことには予算を使って、やれることをやっていきましょう。

いいですか。だから全然やらないなんて一言も言ってません。やらなきゃいけないことをやるんです。いいですか、やってみましょう。

八木教育委員

わかりやすいご説明をありがとうございます。

ローンの話も議会の中でそういった話になりますので、金額云々を少し聞かせてもらっています。

国への学校を建てた時の支払いのスパンということも、やはり国の中で決まっているということはわかるのですが、家のローンに例えると、今家のローンは35年ローンで払うのが当たり前となっていて、ただ、国の基準ではもっと短い。一市民として思うことは、学校などは1回作ってしまえば50年から60年ぐらいは使うものであって、一部の世代の市民だけが負担するということは少しおかしいことなのかなと思います。家のローンは35年で払うのに、学校はもっと短く、一部の世代にしか負担しないということは、少しおかしいこととは思いますが、そこは国の基準もあったり、決まり事もあることなので致し方ないというところは理解はしています。

また、先ほどおっしゃったバケツと水の話ですね、バケツの水の話も以前市長からお聞きしたことがあります。経済V字回復と言われているところも、聞いています。

安定した財源がまだないということを危惧されていることもわかりますが、そのバケツと水が、この短い期間で果たしてちゃんとできるのかと。市長を信用していないわけでも、悲観をしているわけでも絶対にないのですが、ただ、今まで私が暮らしている中で、果たしてそういった学校を建てることのできるまでの起爆剤となるような経済政策が、今現在ここにおありなのかということは、当然ここでは言えないことがあるとは思いますが、そこの青写真なり、そういったところが見えないと、不安になるなと言われても不安にはなってしまいます。

ですので、そういったところも含めて、今後舵を切り替えるということになったのであれば、対話なりご説明なりを充分にしてください。これまでの長い月日の中で一つずつやってきた市民の話し合いや、我々保護者もいろいろな学校に行き、もちろん地元の学校も行き、新しい学校も視察してといった、その流れが無駄になるとは言いません、ゼロになるとは言わないのですが、大きく変わってくる節目であることは間違いないと思います。その辺りの説明なり対話なりを今後していただかないと、「納得して欲しい」、「納得することを期待する」というその納得感は得られないのではないかと思います。いずれにしても対話をしていただければと思います。今日この会議の中で、教育委員3人からこれだけの意見が出てくる案件ですので、対話をして、そして最後に決断をしていただきたいということが私の思いであります。

鶴田教育委員 私の見落としや理解不足があったら申し訳ないのですが、再編はソフト面から進めるという言葉に関して、私が描いていたものがありましたが、どうやら違うようなので確認をさせてください。この大きな課題解決は、教育の一環であると何度もおっしゃっているかと思いますが。これは教育の一環にするんだと。その教育の対象者は誰なのでしょう。

福田市長 再編にということですね、教育の一環とするってことですね。

鶴田教育委員 ソフト面から進めていくというお話の中で、これ自体が、これこそが教育だと。

福田市長 なるほど。
ここで僕が子供たちですって言ったら、これは違うことになると思います。これはもうはっきり市民です。そうです。これ市民です。
物事を作る、街を作る、その中の一つが学校だと思っています。

学校が全てではありません。

全てのことについて、自分たちが住んでる街をどのように描いていくかという青写真というのは、3万8000人以上いるこの市民の一人一人が描いているものだと思っています。

その描いてるものをいかに実行するか、させるかというのは、一人一人やっぱり考え方も違いますし、全くもって、実現するものも分からないと思います。

なので、今回この学校再編、そして学校の新築とか、そういった問題が起きたときに、これはもう子供を持ってる人たちだけの問題なんていうようなものではなくて、中間市の問題ですから、市民全員が考えるべきだと思っていますので、市民全員に対する、僕は問題だと思っています。

だからパブリックコメントってやるんじゃないかな。もし知らなくていいんだったら、学校の関係者だけでいいんじゃないかなと思いますよ。

それから、絶対みんな勘違いしてはいけないのは、子供たちが卒業した後も、作った借金というのは市民である限り、払っていかないといけないんですよ。

だとしたら、市民にとって、そんな膨大な借金がかかるものを簡単に作らせるということはいくつかはよくないですよ。それでも払ってもいいよっていうものを作ることが、理想ですよ。そのためにも、今、先ほど八木委員がおっしゃったように、今までのお話し合いの中に、やっぱりもっともっと密に、私をはじめ、いろいろ赴いて話をしなければならないと思っています。

これは実際に、今やり始めているんです。

なぜか。やれるようになったからなんです。

今日も夕方、1階の市民ホールで、僕が職員向けの講義をします。

至って単純です。市がやろうとしていることを、まず職員が全員知ろうよってことです。職員が全員知ったら、皆様からのように、何か質問を受けたときに、こうですよって説明できるようにしよう、これが当たり前じゃないかなっていうことを、最近言っています。

その基本となるのが、教科書です。それが市政だよりなんです。これ税金ですよ。この皆様の税金で渡っているにもかかわらず、読まないっていう人もいますし、知らないっていう人もいます。

これ、言い換えると、知らなくていい人に、文句言わないでっていうことと、知らなかったっていう人に、どうしてですかっていうことなんです。だから、これも全部含めて僕は、教育の質っていうんですよ。自分の興味あるものだけに探ろうとするのはこれ誰でもやるんです。

でも、自分の周りを見渡して欲しいのです。老若男女、高齢者もいます。自分は若いけど、いずれ年を取ったらこうなると思う、思いやりの心を持ってこれは福祉になるんじゃないでしょうか。この人たちを助けるにはどうしたらいいんだろうか。稼がなきゃ、これ経済になるんじゃないかな。そのためには何を勉強しなきゃいけないかって、これ教育なんじゃないですか。

だから、僕は今回のこの問題は、市民全部の問題だと思っています。お子さんだけを持った人たちとか、学校の先生たちだけとか、そんなことじゃないと思います。

もしそういうふうなことがまかり通るのだったら、日本国は終わりです。我々は日本国に生まれたんですから、日本国を何とかしなきゃ。自分たちの目の前のハエを追っ払ったってしょうがないですよ。私たちも見も知らない人たちから補助金をもらっているのです。私たちは、その見も知らない人たちからお金をもらってるものを、違うものに使えるのですか。ただハコモノだけに使えるのですか。俺は許しませんよ。少し強めてごめんね。

これ間違ってますかね。いいんですか、あぐらをかいて。

うちは3割自治だから、国に言えばいいでいいんですか。国だって今大変だよ。本当に大変ですよ。だとしたら私たちを、同じ日本に住んでるのだったら、大変なものを共有するのは当たり前じゃないですか。それを先生が教えてないの。学校で何を教えているのですかってなるんですよ。

人が困っていたら、みんな助け合うって言ってるじゃないですか。

中学校の中で、南中ですか、テーマが共存共栄って。俺笑ったと同時に、なんていい学校なんだと思いましたよ。共存共栄ですよ。だとしたら今、こういったものっていうのは全て共存共栄じゃないですか。すばらしい教育をしてますね。

こういうことをやっぱり私たち一人一人が、日本人として思うべきだ。

ごめんなさい。話が全くずれたかもしれませんが、教育を語ると、こんなふうになってしまうので、すみません。

だから、決して皆様も落胆させたりしないように頑張ります。本当に頑張って、もう八木委員がずっと言ってる、確証があるのか、お前稼げるのかについてはもう言ってます。稼がせてもらいます。何をやってるかって、どうかどうか市政だよりを見てください。書いてあります。写真が出てます。形だけじゃないいろいろな連携を結んでます。

だから職員に言ってるのです。皆様のこういう質問にちゃんと答えられるようになりなさいよってことです。

そういう街になってきましたね。そんな気がします。

鶴田教育委員

読まない、知らないということに関して、私も情報発信に携わっている身ですから、すごくお気持ちが変わっているつもりですし、もどかしさということも日々感じているところであります。

ターゲットが決まっている商品ですとか情報ではない、こういった広報という360度伝えなければいけないような情報というものについて、特にそこまで市民全員の問題だと強くおっしゃられるのであれば、パブリックコメントも今のままでいいのかと疑問に思います。もう少し丁寧に、本音の部分で、年齢層ももっと幅広く、多くの市民の方にこれまでのパブリックコメントを届けたりとか、パブリックコメントを読んでいないような層にどう広げるべきかを考えていただけたらと思います。

また、パブリックコメントを受け取ったそのあとの設計までをされているのかですとか、効果測定をどうやっていくのかですとか、そのあたりも丁寧に考えていただけるとすごくありがたいなと思います。

福田市長

もう、まさしくおっしゃるとおりです。

それを踏まえて、今後私たち執行部側として、皆様に頼りっぱなしではなくて、一緒に共有してですね、地域課題ってよく言いますけども、この課題はやっぱり全員が共有してやっていくべきだと思っていますので、発信の仕方も含めて、我々も切磋琢磨してやっていきますので、逆に、何か良いご意見がありましたら、もう本当に忌憚なく、話をしていただければと思っています。

そういう環境になってますから、よろしく願います。

八木教育委員

この話の流れとは若干ずれるかもしれませんが、今日、お越しいただけなかった太田委員から、ご自身のご意見を伝えてくださいということで、依頼がありましたので、少し読ませていただきたいと思います。

建築費高騰の現実問題はあるものの、中学校の新校舎建設を先送りするもしくは大規模改修することにつきましては賛成いたしかねるということです。理由は、子供たちの教育環境の整備と、充実を最優先するためです。

現在検討が進んでいる原案を実現すべき最大限の財政出動をお願いしたいところですが、建設費を抑える代替案として、木造校舎についてです。

建築基準法の改正に伴い、3階建てや大規模な木造施設が可能になっています。最新技術の進歩により、耐火性の高い木造建築が可能となっています。木造校舎は木のぬくもりを感じる持続可能な未来を育む学び舎として、

全国的にも注目度が高いと思います。

木造校舎の新築事例は、環境配慮SDGsや木のぬくもりを活かした教育環境を目的として全国でも増えており、主な最新事例には、準耐火構造の3階建て校舎である松田町立松田小学校、神奈川県や、CLT工法を用いた昭和学院小学校、千葉県などがあるということで、いろいろそういった木造建築に関して、太田委員が調べられています。

今後、新築をするというときに、一つの財政支出を抑える方法として、私たちどうしても鉄筋コンクリートという考えがありますので、私もこれを読んで、そういった方法もあって、それが子供たちや市にとってベストであれば、こういう方法も一つのプランとして入れていくべきかなと思います。ぜひ話してくださいということですので、お伝えさせていただきます。

福田市長

わかりました。

太田さんに伝えておいてください。それも含めて、教育委員の方から、工事費の諸々というものを出示してください。

僕らの方から、これあります、やりますというようなことではなくて、建設費を試算する際に、コンサルの人などに、建築方法として、当然木材もあるだろうし、軽鉄もあるだろうし、鉄筋もあるだろうというようなことを出示していただければ、そのチョイスするのは私たちですので、今のご意見も含めまして、様々な技術革新ももっとあると思うし、もしかしたら3Dプリンターで作った方が安いとなるかもしれないですね。ないですかね。そういうような技術は日進月歩ですから、僕たちはわからないので、そういうことも含めて、今後いろいろと意見交換をしていきたいと思えます。

他にございませんか。

田中教育委員

少し話を蒸し返してしまうのですが、先ほどソフト面の充実という言葉が出ていましたが、以前学校にいた身としては、学校の現場は先生が足りないのです。そういう意味で、先生に限らず、例えば、スクールソーシャルワーカーとかスクールカウンセラー、それから専門機関の方々の派遣とか、いろいろな手を借りて、質の高い教育を目指すことは可能だと思います。ソフト面の充実と言うのであれば、そこをまずやってはいかかかということが、私の今の気持ちです。これは、意見だけです。

福田市長

ありがとうございます。

それを含めた内容が、次の議題にありますね。

貴重なご意見ありがとうございます。

他にございませんか。

委員の皆様、忌憚のない貴重なご意見ありがとうございます。

老朽化した学校施設を時代のニーズに合った学校施設を整備することは何度も申し上げますが、もちろん重要ですし、改善していかなければいけません。まずは、教育内容の充実を図ることが重要です。子供たちが、自分で問題を発見し、解決できる能力や新たな価値を創造する力を育成していくこと、この教育内容としてのソフト面の充実を図ることが何よりも子供たちを育てることにつながると考えております。

本日、委員の皆様からいただきました貴重なご意見を踏まえまして、引き続き、本市の教育環境の向上に取り組んでまいります。

それでは、次の議事であります、「中間市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

船元学校教育
課長

学校教育課の船元です。中間市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について、概要をご説明いたします。議事2の資料をご覧ください。

公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法が改正され、学校教育の質の向上、教職員に優れた人材を確保する必要に鑑み、学校における働き方改革の更なる加速、組織的な学校運営及び指導の促進、教師の処遇改善を一体的、総合的に進めるため、各市町村教育委員会において、教育職員の業務量管理・健康確保措置実施計画を策定することが義務付けられ、さらにこれを公表することとなりました。また、策定した際にはこの総合教育会議で報告すること、その進捗についても同様に総合教育会議で報告することが規定されました。

このことに伴い、計画を策定しましたので、教育委員の皆様には4月の定例教育委員会議でご説明しましたが、この場においてもご説明させていただきます。

まず、計画の趣旨になります。

中間市では、「教職員が健康でやりがいをもって働くことができ、子ども一人ひとりと向き合う時間を確保するために」というテーマで、平成30年に中間市教職員の働き方改革取組指針を策定し、具体的な取組を定め働き方改革を推進してまいりました。

しかしながら、月45時間を超過する時間外勤務を行っている教職員が小

学校中学校ともまだ3割程度おられまして、業務の精選や業務分担の適正化についても十分とは言えないのが現状でございます。

本計画を策定し、教職員が事務作業を効率化し、創出された時間で子供と向き合う時間や授業改善の時間を確保することにより、学校教育重点目標である、未来を切り拓く力を持つ子供を育てる学校教育の実現を目指します。

次に、本市の現状です。

令和4年度から令和6年度までの小学校の時間外在校時間の実績です。

令和6年度は令和4年度と比べて、月平均で2時間59分、7.3%減少したほか全ての項目で減少傾向にはありますが、80時間を超える時間外在校時間の減少率は低くなっています。

次に、中学校の実績です。

令和6年度は令和4年度と比べて、月平均で6時間40分、15.6%減少したほか全ての項目で減少しています。

次に、目標になります。

まず、時間外在校等時間に関する目標ですが、月45時間以下の割合100パーセントを目指します。また、年間平均では月30時間程度といたします。

次に、ワークライフバランスや働きがい等に関する目標です。

年間の年次有給休暇の取得日数15日以上等の目標を掲げております。

計画の期間については、今年度令和8年度から令和10年度までの3年間です。

次に、実施する業務量管理・健康確保措置の内容、具体的な取組についてです。

まず、(1)業務の3分類を踏まえた業務の見直しです。業務の3分類とは、文部科学省が示した枠組みで、学校以外が担うべき業務、教師以外が積極的に参画すべき業務、教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務です。まず学校以外が担うべき業務は、登下校時の通学路における日常的な見守り以下4項目を掲げております。

次に、教師以外が積極的に参画すべき業務は、調査・統計等への回答以下3項目を掲げております。

次に、教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務は、授業準備、学習評価や成績処理以下2項目を掲げております。

(2)学校における措置の推進ですが、年間総授業時数や週当たり授業時数については、年度当初の計画段階において、真に必要な時数となるよう設定するなど見直しや工夫をしていただ

きます。

次に、(3) 教育職員の健康及び福祉の確保に関する取組です。

月80時間を超えた職員に医師による面接指導を実施するなど7項目を掲げております。

次に、関連する取組、今後のフォローアップについてです。取組の着実な実行を図るため、市内各学校の教育職員の在校等時間の状況を把握し、毎年度市のホームページで公表するとともに、定例の教育委員会及び総合教育会議において報告することなど6項目を掲げております。

以上で、計画についてのご説明を終わります。

市長には、教育を施策展開の一つの柱と位置づけていただき、校務支援システムの導入、教員業務支援員の配置、部活動指導員の配置等、教職員の働き方改革関連予算をつけていただいているところでございますが、今後も本計画の着実な実施に向け、国県の補助金を十分に活用するなど財源を確保しながら教育委員会としては施策を展開してまいりますので、引き続きご理解ご支援賜りますようお願い申し上げます。

福田市長

ありがとうございました。

こちらにつきましては、公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法が改正され、学校における働き方改革の更なる加速のため、「業務量管理・健康確保措置実施計画」の策定が義務づけられたものでございます。

本日は、私と教育委員の皆様が意見交換を行うというよりは、この総合教育会議を活用し、一緒になって、現状を共有し、取組状況や課題を継続的に検証しながら、教職員の皆様の働き方改革とともに推進していくことが重要であると考えております。

教育委員の皆様と一丸となって、働き方改革を実効性のあるものとしてまいりますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

それでは、全ての議事が終了いたしましたので、清水教育部長にお返しいたします。

清水教育部長

福田市長、ありがとうございました。

会議の最後に、蔵元教育長から一言お願いいたします。

蔵元教育長

本日は、どうもありがとうございました。

まず、議題(1)の中間市新中学校施設整備実施計画につきましては、今回、市長から、当面の間は教育委員会が提案する整備方法ではない方法、

いわゆる既存の学校校舎・施設を改修しながら維持していくという方針が示されました。教育委員会といたしましては、改めて新中学校の再編・整備について検討を行い、市教育委員会としての考え方をまとめて回答したいと考えております。

最後に、議題（１）と議題（２）を通して、社会情勢が急速に変化し、不安定化する中においても、子供たちや教職員の教育環境を安全安心なものとしていくことによって、子供たちが未来を切り拓いていく力を育てること、教職員が子供たちと向き合うことができる時間や授業改善に集中して取り組むことができる環境を整備していくことは、行政に課せられた使命であると考えております。

今後とも市長と教育委員会が一丸となって、この多様化・複雑化する教育課題を克服できる方策と一緒に検討してまいりたいと考えておりますので、今後ともこれまで以上のご支援とご協力をお願いいたします。

清水教育部長

蔵元教育長、ありがとうございました。

以上で、本日の議事は全て終了いたしました。

これをもちまして、令和８年度第一回中間市総合教育会議を閉会いたします。

皆様、ありがとうございました

[閉会時刻：１６時１９分]